

ニーズレター

発行日 2021年1月15日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

新年号



石清尾八幡神社

.....

もくじ

○ 巻頭言	2
○ 新型コロナウイルス感染症	3
○ 利用者からの声	4
○ グループホームの移転の話	6
○ 事務局だより	8
○ 編集後記	8



巻頭言

2020年から2021年へ

理事長 細谷 要一

謹んで新年のお祝辞を申し上げます
本年もよろしくお願いいたします

新型コロナの一年が過ぎ、新しい年を迎えましたが、感染拡大は勢いを増していることが案じられるところです。一日も早い終息を願っています。

住む地域や仕事、また人によって差があると思いますがコロナによって日常に大きな制約がかかってきました。グループホームでも入居者の自主性を尊重したうえで、行政からの要請や当法人独自の新型コロナ対策を奨励してきました。共同部屋ではマスクはもちろん、体温・体調また県外への外出の申し出など、理解を得て協力していただいています。ストレスになっているとの声は多いです。

ホームワーカーにおいては、飛沫防止の机上シールドの設置と消毒管理その他作業的なこと、入居者の一層の健康状態の見守りなど、これまでなかった感染対策のための仕事が増えています。また、理事会と運営会議は5月からインターネットを利用したテレビ会議を行っていて、相手の表情は見ながらも疎通の取りにくさを感じながら議論をしています。

こういう不安と生活習慣の変化によるストレスの高まる中ですが、入居者の実生活は、コロナの不安や恐怖を冷静に受け止めているようで、殊更に動揺する状況はみられません。それぞれがコロナ対策をしながら家事・通院・趣味・仕事などコロナ以前と変わらない活動をつづけています。

ホームワーカーも仕事量が増えています。入居者からの相談支援に忙しく勤務を続けています。

理事会からお伝えしたいことは、昨年春に理事会と運営委員会の組織上の位置づけの検討と、役割の整理を行った結果、より機能的で充実した委員会になりました。また懸案となっていた利用者(入居者)から委員が選出され10月から運営会議に参加しています。今後利用者の立場からの意見が反映されることを期待しています。

以上簡単ですが2020年の経過報告です。今年、ビアーズ宮脇の移転、第5グループホームの準備、ホームワーカーの募集など課題はありますがこれも「順調」なこととして受け入れています。コロナに対してはしっかりと対応をしながら、利用者が地域で生き生きとした生活を送れるよう粘り強くサポートしていきたいと考えています。

新型コロナ感染症に対応する力

理事 細谷 賢嗣

1/11現在

世界中で9,000万人が感染しイギリスで変異したウイルスが見つかりヨーロッパ、中東、アジア、南アフリカと感染拡大に歯止めがかからない状況となっている。

日本でも293,000人が感染、関東では2回目の緊急事態宣言が発令され、近日中にも関西の3都府県でも発令される予定である。

ここ香川県でも447人が感染し、新たなクラスターも次々と発生している。

当法人の入居者、職員の安全をどうすれば守れるのか？

共同部屋への入室の際は、検温、手洗い、消毒、マスク着用にて距離を取り、換気、消毒を行う。

職員、入居者のみんなで手洗い、マスク、三密を避け不用不急の外出を控えるようにする。

法人独自のコロナ規定を作成し、職員の県外への往来の禁止、県外からの来訪者との接触を避ける、会食を避ける等、要請する。

毎月リモートでの会議を行い現状把握と対策を行なっている。

不用不急って？何が不用不急なのかは、個人によって違う。
人それぞれの感覚に温度差がある。

入居者のみなさんに安心して生活してもらう為には・・・。
入居者や職員、関わる可能性がある方には全員PCR検査をしてもらう。
それは強制？要請？じゃあ次は、どの段階でまた検査する？
ワクチンが出来たら・・・。

問題は次々と出てくる。

人間らしい、温かみのある自立支援が段々と出来なくなって来るんじゃないか？
ただ私が思うのは、先行きが見えないような敵と戦う為には、完全に問題を解決しようとする力ではなく、状況によりベストな対策を取る対応する力だと思う。

その為にはいつもアンテナを張り情報を集めて何が効果的なのか？
今、何が出来るのか？
何が出来て、何がベストなのかを議論して行動する事だと。

「解決策、解決力」ではなく、『対応する力』だ。

利用者からの声

(2ページ)



(1 ページ)



ビアース宮脇の移転について

サービス管理責任者 増田 周作

2019年8月以降、理事会において宮脇の移転について検討を行い、ようやく移転のメドがたってきました。

移転を検討するきっかけになったのは、2017年9月の台風時に1階部分が床上まで浸水したことでした。

過去、グループホームの立ち上げ前の2004年の台風で、大規模な浸水があった場所であることは了解済みでしたが、50年や100年に1度の問題として捉えており、そうそうないことと考えていました。

しかし、ここ数年の間は当初の予想とは異なり、2017年以外にも毎年のように台風や長雨の影響によりグループホームの前の道や入口ギリギリまで冠水するということが続き、入居者から不安の声があがったので、入居者の安全と安心を考慮し、移転について当法人は問題、課題として取り上げ議論してきました。

2019年9月頃より、当法人は物件の選定基準として主に、下記の5つ条件を中心に具体的に物件探しを始めました。

- ① 水害の問題がない物件
- ② 消防法の問題から、自動火災報知機がついている物件
- ③ 現在の宮脇の生活環境から大幅に変わらない地域での物件
- ④ 他のGHと比べて住環境が同等の物件
- ⑤ 7戸以上の空部屋があり、みんなで引越しが可能な物件

2005年に、花の宮町から仏生山へのグループホームの移転を経験していたので、そんなに困難なこととして考えていませんでしたが、この間に消防法の変更やグループホームの定員など変化があり、予想とは違って困難な物件探しとなりました。

一番、困難であったのは空部屋の戸数でした。2～4部屋くらいは空いている物件はあるのですが、7部屋となるとなかなか条件が難しく選べる範囲が少なくなります。

1年以上かけてようやく、同じ宮脇町内に自動火災報知機がついている物件で、7戸以上の空が出そうな物件を見つけることができました。

2020年11月19日に入居者に移転先を内覧してもらいました。

ここで入居者から部屋の間取り等にいろいろな意見がでましたが、その声に対応しながら、移転の準備を進めています。



はじめて、看板ができました！



事務所の入口にも



事務所に倉庫が完成しました



感染症予防対策として、アルコールやアクリルパネルを設置しました

事務局だより

事務局 岩佐 亜紀

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

2020年は感染症の問題から、全世界的にストレスの多い1年でした。

それぞれが自分の都合を考えて動いてしまうと全体に影響することが容赦なく数字に表れて、見えない他人をこれまでになく強く意識し、人のつながりが大きく変化した年でもありました。弱い所に心配りを忘れていないか、少しでもここに余裕をもって、そのつながりを良い方向に生かしたいですね。

さて、事務所が移転して早や2年を迎えようとしています。

先のページの写真のように、事務所入り口前に法人の看板を設置しました。荷物をしまっておくための倉庫も設置して、事務所らしくなってきました。

今年度は特に、事務所と各 GH に消毒用のアルコールや体温計、アクリルパネルなどを設置して、入居者、理事、職員一丸となって感染症予防対策に取り組んでいます。

まだまだ、新型コロナウイルスは猛威を振るっていますが、みなさまも体調を崩されませんように健康にお気をつけてお過ごしください。



編集後記

庭の紅梅のつぼみが少し膨らんで春を待つ頃となりました。

皆さまにおかれましては、お元気で新しい年を迎えられたことと思います。

去年は二重レター発行にあたり、いろいろとご協力いただき誠にありがとうございました。今年も編集員一同、より内容を充実し皆様に読んでいただける機関誌を目指して努力をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

また、去年は新型コロナウイルスで幕を開けました。残念ながら新年はその幕を下ろすことはできませんでした。変化する社会や生活様式の中、気を緩めることなく健やかな日々を過ごされますよう願っております。

(天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955